

## Ear Lobe Crease(ELC)と動脈硬化の相関性について

©松本 拓也<sup>1)</sup>、桂藤 亜衣<sup>1)</sup>、後藤 崇志<sup>1)</sup>、畑野 展子<sup>1)</sup>  
社会医療法人 祥和会 脳神経センター 大田記念病院<sup>1)</sup>

【目的】 Ear Lobe Crease (ELC) は耳介の珠間切痕から後下方に走るしわのことである。動脈硬化が進行し、血流が悪くなると耳たぶの脂肪組織が萎縮し現れるものであり、ELC と動脈硬化症は関連性の高いものと考えられている。今回我々は ELC が動脈硬化のリスク因子や動脈硬化の指標とされている Max IMT、PWV と相関性があるか検討した。

【方法】 2020 年 7 月から 2021 年 6 月までに当院に脳梗塞で入院し、同意を得た患者を対象とした。ELC は両耳の写真を撮影し、検査技師 3 人で有無を確認した。今回は片方でも陽性であれば、ELC (+) 群とした。ELC の有無と高血圧 (HT)、糖尿病 (DM)、喫煙歴、Max IMT、baPWV、吹田スコアとの関連をそれぞれ検討した。Max IMT は総頸動脈から内頸動脈までの最大値とした。吹田スコアは、10 年間の冠動脈疾患発症を予測するスコアであり、年齢、性別、現在の喫煙状況、DM、血圧、LDL、HDL、慢性腎臓病を評価してスコアリングする。スコア 9%以上が高リスクとされている。【結果】 期間中、対象は 484 人 (男性 : 288 人 [59.5%] 中央値 : 75 歳) であった。うち、

ELC (+) 群は 322 人 [66.5%]、ELC(-)群は 162 人 [33.5%] であり、性差は見られなかった (男性 : 200 人 [62.1%] vs 女性 : 122 人 [37.9%] , $p=0.099$ ) が、ELC(+群)は ELC(-)群に比べ高齢 (77 歳 vs 71 歳, $p<0.001$ ) であった。また、ELC (+) 群は ELC(-)群に比べ DM の割合が高く (140 人 [43.5%] vs 54 人 [33.3%] , $p=0.032$ )、Max IMT は厚く (2.3mm vs 2.0mm, $p<0.001$ )、baPWV は高かった (2167cm/sec vs 2043cm/sec, $p=0.004$ )。喫煙歴は ELC(+群)が ELC(-)群に比べ多い傾向 (174 人 [54.5%] vs 73 人 [45.6%] , $p=0.065$ ) であり、HT は ELC (+) 群と ELC (-) 群で相関性は低かった (275 人 [85.4%] vs 131 人 [80.9%] , $p=0.200$ ) が、それらを含む吹田スコアでは 9%以上の割合が多かった (206 人 [64.0%] vs 86 人 [53.4%] , $p=0.025$ )。【結論】 ELC はその他の動脈硬化に関連する検査と相関性があった。自覚症状が乏しくても、ELC を確認することで、動脈硬化の早期発見できる可能性が示唆された。今後、検査の合間に ELC を確認し、技師からもアプローチをしていきたい。連絡先 084-975-7796